

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成29年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
機関名	お茶の水女子大学	全体責任者（学長）	室伏 きみ子
類型	複合領域型（横断的テーマ）	プログラム責任者	森田 育男
整理番号	T02	プログラムコーディネーター	古川 はづき
プログラム名称	「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

産業競争力会議では我が国の目標を「課題解決志向を重視した研究開発を推進する科学技術・イノベーション立国の実現」としたが、これは、グローバル化が進む世界の中で日本が持続的に発展するには継続的な価値の創造（イノベーション）が必須という認識にもとづいている。科学技術立国を目指す日本においてこの目標を実現するためには、①リスクをチャンスに変える「発想力」②卓越した分析力に裏打ちされた「問題発見力と解決力」③「協調性」と他者に働きかけ協力を得る「協働誘発力」④社会の流動的な変革に対応する「柔軟性」の素養を持った理工系人材の確保が急務である。また、これらの人材がグローバルな社会でイノベーションを起こす次世代リーダーとして活躍するためには、Ⅰ.社会の現実を俯瞰的視点から「統合・分析する力」、Ⅱ.深い思慮に裏打ちされた「人間力」、Ⅲ.「主体性、積極性、交渉力」とそれを支える「言語・コミュニケーション能力」、Ⅳ.「異文化に対する敬意と受容性」および日本人としての「アイデンティティ」、Ⅴ.グローバルな情報発信や情報収集に不可欠な「IT技術」を兼ね備える必要がある。

一方、第4期科学技術基本計画では、人材育成の強化において、独創的で優れた研究者の養成として、研究者のキャリアパスの整備とともに女性研究者の活躍の促進を掲げている。

これらについて熟議の末、本学位プログラムでは社会のニーズの変化に対して柔軟に対応でき、しかも社会が必要とするイノベーションを創出し続けられる人材として、物理・数学・情報を基盤的素養として持ち、互いに切磋琢磨しながら『継続的にイノベーションを創出するグローバルな理工系分野の博士』を産学官協働で養成することを目標とした。これは、原石（自己）を磨くことにより、自己と他者ひいては世界を変革するという本学校歌に因む「みがかずば」精神そのものである。

本学には、女性のグローバルリーダーを育成する使命がある。本学位プログラムの実施を通じ、特に女性の少ない理工系分野（物理・情報等）の新しいリーダーを育成することで、2020年までに指導的立場に立つ女性の比率を30%に高めるという国の数値目標達成に大きく貢献し、日本の持続的発展及びよりよい世界の実現の一翼をにない、本学に対する社会の期待に応える。

（機関名：国立大学法人お茶の水女子大学

類型（領域）：複合領域型（横断的テーマ）

プログラム名称：「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成（ ）

## 2. プログラムの進捗状況

平成29年度においては、28年度までの取り組みをベースとして、主に以下の活動を実施した。

### (1) 副専攻カリキュラムの一層の充実

#### ○講義の一層の充実

大学院共通科目として、基盤力強化、グローバルリーダー力強化に資する科目をプログラムとして開講し、のべ180名（半数以上は履修生以外）が履修するなど、大学院全体への定着が進展した。29年度は、産業界関連、リベラルアーツ、理系英語に関する4科目をプログラムとして新たに開講するなどカリキュラムの更なる充実を図った。

#### ○チーム力強化コースワークの進展

Project Based Team Study(PBTS)については計10チームが活動を実施した。さらにグローバル研修（いわゆる中長期研究室ローテーション）については、29年度には17名の履修生が、国内外の21の機関で研修を実施した（30年3月末時点で実施中の者を含む。）。

### (2) 学位の質保証システムの発展

○Qualifying Examination (QE) については、選抜時のinitial QE（29年9月、30年3月）、博士課程前期修了時のmiddle QE（30年1月～3月）、半期毎のperiodic QE（29年9月、30年3月）について、継続的な改善を図りつつ実施した。29年度は初めての履修生の修了審査であるfinal QEについても、外部の有識者を招いての発表会（30年1月）を行うなどをルール化した。これにより当初予定した4つのQEシステムの基盤が整備された。

### (3) キャリア支援活動の強化

○キャリアコーディネータによる個別相談、大学のOGなどの協力を得たキャリア支援セミナーの拡充（計4回開催）、学内外の企業とのマッチングイベント参加機会の提供（29年9月、12月他）などを通じて、履修生のキャリア支援活動の一層の充実を図った。その結果、最初のプログラム修了生を産学官の各領域に輩出することとなった。

### (4) 学生の自主企画活動や研究活動のサポート強化

○学生のマネジメント能力を育成するため、学生の自主企画行事を、学生自身が、民間企業との調整や他大学のリーディングプログラムへの声かけなどを行い、12月に実施した（女性博士人材への産業界における期待に関する調査）。

○その他、PBTSの研究成果発表をはじめとする国際学会への参加などを支援した（29年10月、30年1月）。参加を通じ表彰を受けるなどの成果もあげている。

また、優秀な学生への奨励金や研究費の支給、学生の悩みを相談するカウンセリング体制の整備など、多方面からの支援を実施した。

### (5) 運営体制の一層の充実

○学内外のプログラム担当者などで構成される、運営委員会及び実務推進会議を計9回開催するなど、事業の定着や発展に向けた活動を継続した。また、28年度に着手したプログラムの外部評価に関しては、その総仕上げとして、外部評価委員会の開催（30年2～3月）を行い、その結果をとりまとめ公表した。

### (6) その他

○リーディングプログラム学生交流会（29年6月）や海外の学生との交流（29年7月、8月）などの学生間交流活動も継続実施した。

○また、広報誌の発行（年4回）と発送先の拡充、外部シンポジウムでの講演（29年9月）など外部へのPR活動を強化した。